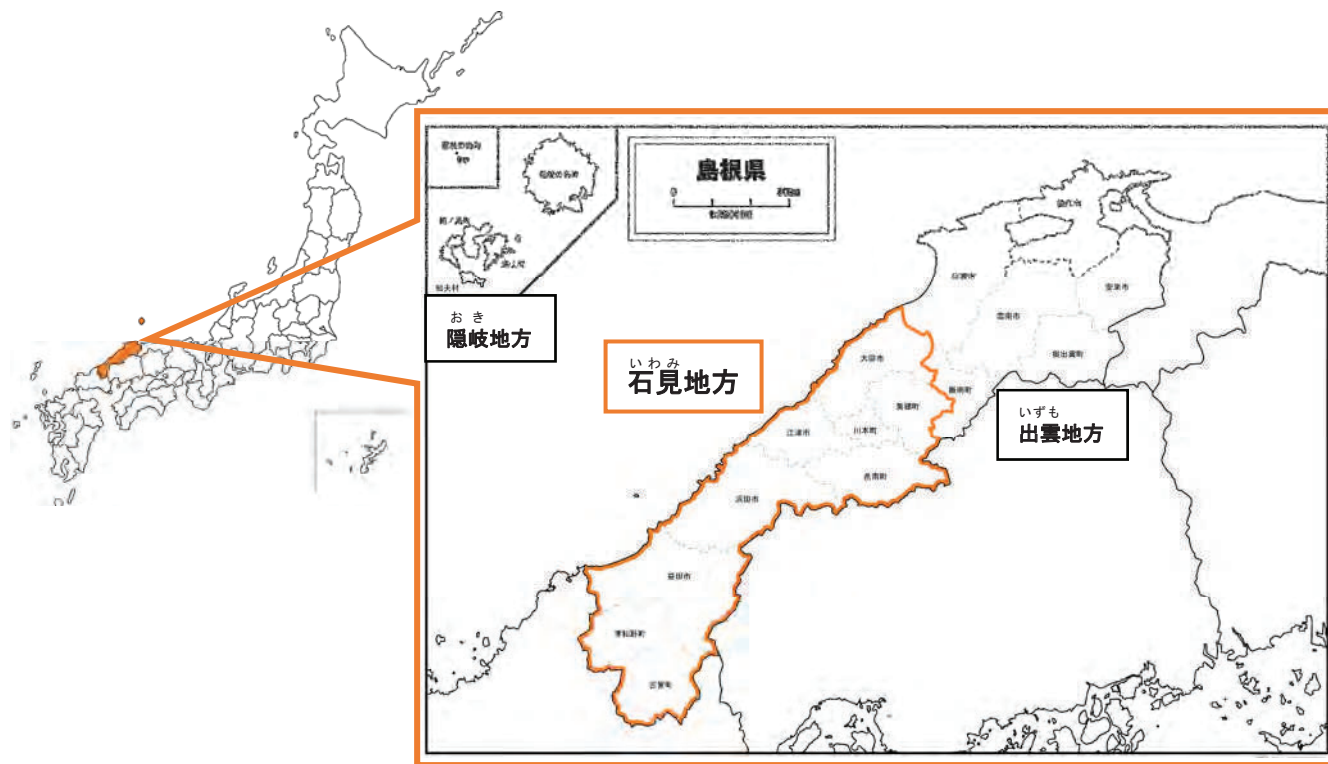
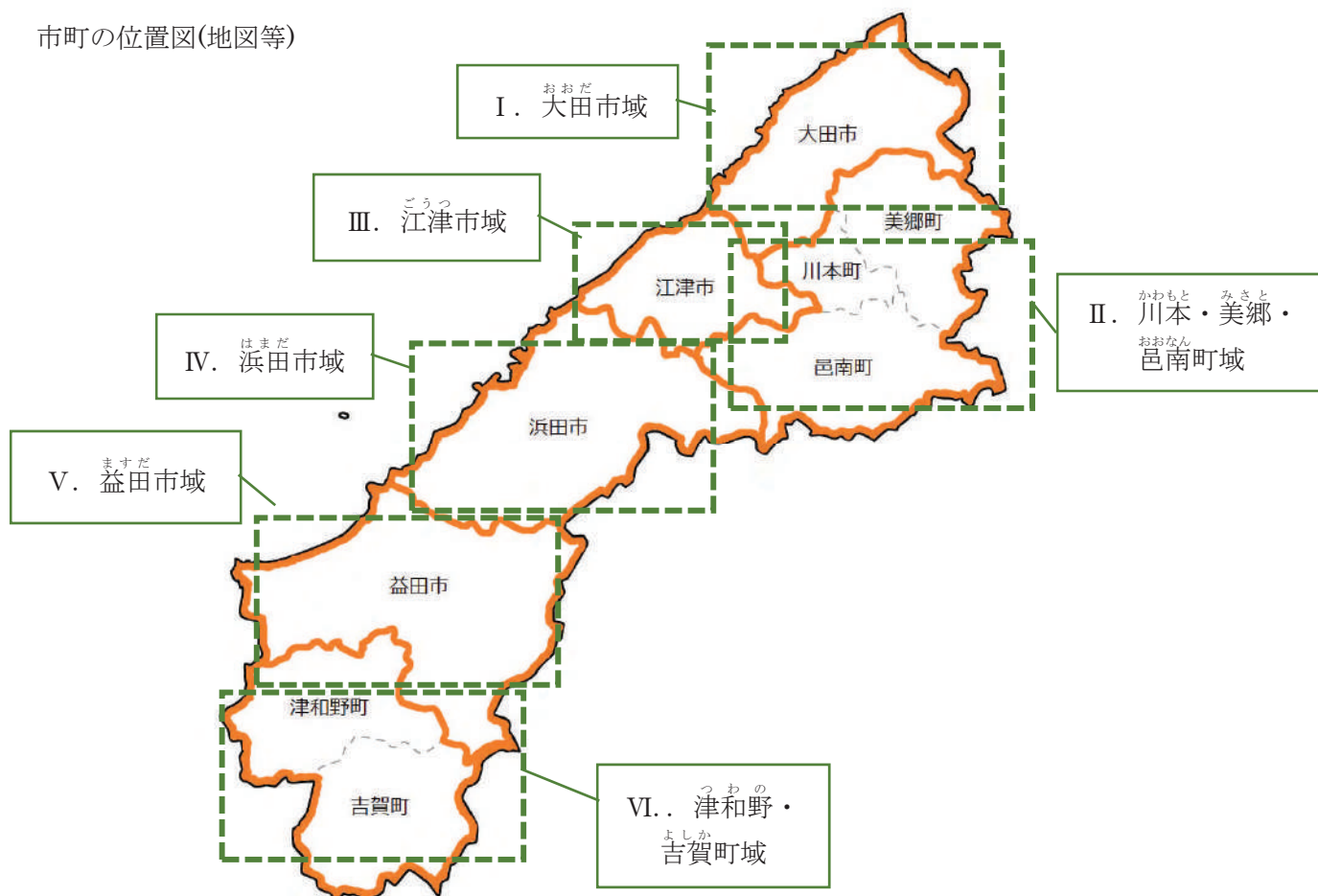


① 申請者	◎浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
神々や鬼たちが躍動する神話の世界 ～石見地域で伝承される神楽～			
④ ストーリーの概要（200字程度）			
島根県西部、石見地域一円に根付く神楽は、地域の伝統芸能でありながらも、時代の変化を受容し発展を続けてきた。その厳かさと華やかさは、人の心を惹きつけて離さない。神へささげる神楽を大切にしながら、現在は地域のイベントなどでも年間を通じて盛んに舞われ、週末になればどこからか神楽囃子が聞こえてくる。老若男女、観る者を魅了する石見地域の神楽。それは古来より地域とともに歩み発展してきた、石見人が世界に誇る宝なのだ。			
			
神社での奉納神楽		重要無形民俗文化財「大元神楽」	
			
職人の手により漉かれる石州半紙		神楽衣裳の着付け体験を楽しむ子ども達	

島根県、市町の位置図(地図等)



市町の位置図(地図等)



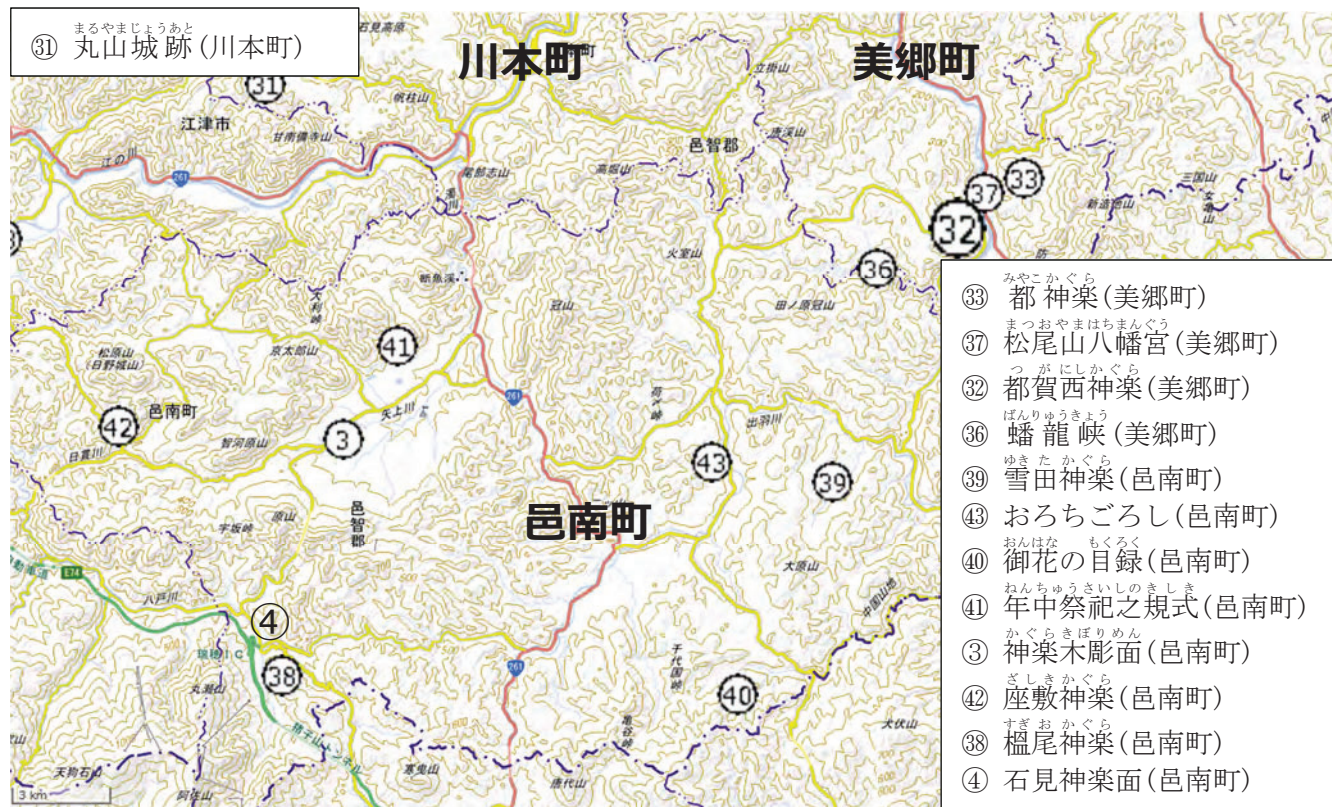
構成文化財の位置図(地図等)

I. 大田市域

※ 出典：国土地理院(<https://maps.gsi.go.jp>)

※ 地理院地図を加工して作成(以下同じ)

II. 川本・美郷・邑南町域



構成文化財の位置図(地図等)

Ⅲ. 江津市域



構成文化財の位置図(地図等)

IV. 浜田市域



構成文化財の位置図(地図等)

V. 益田市域



VI. 津和野・吉賀町域



- ① おおもとかがら
大元神楽は江津市の一部・川本町・美郷町・邑南町に分布
- ② いわみかがら
石見神楽は9市町全域に分布
- ③ はこずし おしずし
角寿司(箱寿司・押し寿司)は9市町全域に分布

ストーリー

○神楽を伝え、舞とともに生きる石見人

島根県西部に位置する石見地域。人口が減少し、全体の人口がわずかに 19 万人でありながらも、この地域には、神楽団体（社中・保存会等）が 130 を超えて存在し、それぞれの地域で伝承されてきた舞を守り続けるとともに、時には新たな舞を創造しています。

なぜ、この地で暮らす者は、大人も子どもも神楽に魅せられ、若者は神楽を舞うためにこの地に残ることを選択するのか。ここ石見で伝わる神楽の魅力の一端をご紹介します。

○大元神楽と石見地域の神楽の変遷

古来より、石見地域一円に根付く大元信仰に基づき、数年に一度それぞれの村で周辺地域の神職が集まって執り行う「大元神楽」が行われており、これが現在の石見神楽のルーツとなっています。

大元神楽は、近世以前から石見地域一帯に伝承されており、恵みを与えてくださる神（大元神）への感謝を表す大元信仰から生まれたものといわれています。数年に一度の式年祭の日に行われ、斎場に大元神をお迎えし、神事、儀式舞、神楽舞が夜を徹して行われます。中でも神がかりによる神のお告げを聞く託宣の神事があり、これが大元神楽の特徴でもあります。

明治期には、神職による神楽や託宣の神事を禁止する政府の命令が出され、大半の地域では託宣の神事は姿を消すことになりましたが、山間部の一部の地域では今でも神職による神事と神がかりが伝承されており、1979 年に「大元神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定されました。

現在では、かつての神職による舞が比較的忠実に受け継がれた、ゆるやかで優雅な舞を六調子神楽、舞や奏楽の調子が速くなったものが八調子神楽と呼ばれています。

また、舞われている演目は 30 番を超え、素面に採り物で行われる「儀式舞」と、古代から中世にかけての神話・説話を基に神や鬼が躍動する「能舞（神楽能）」と呼ばれるものに大きく分けられます。

○神楽囃子の聞こえる里「石見」

秋になると、集落のお宮の周りには大きな幟が立ち、祭りの訪れを知らせます。祭りの日には大きくて美しい傘鉾（花笠）を飾る地区、参道沿いの家が大きな提灯を下げる地区など様々ですが、皆一年に一度の大切な日を心待ちにしています。

夜になると、小さい子どもからお年寄りまで、銘々に毛布を抱えたり、弁当や酒を抱えたりしながら、お宮や公民館などへ続々と集まってきます。その表情は、これから始まる神楽への期待に満ちています。いよいよ時間が来ると、透き通るような笛の音が夜空に鳴り響き、太鼓の音が大地を震わせます。

粛々と舞う儀式舞に続いて、装飾豊かで豪華絢爛な神楽衣裳に身を包んだ神や鬼が舞殿に立ち現れる神楽舞が繰り広げられていき、子どもも大人も食い入るように見つめ、大きな拍手を送ります。夜気が深々と冷え込む中、人々の熱気とともに神楽の夜は更けていくのです。神の御前に集い、一年の豊作と平穏に感謝し、次の一年も平和に暮らせるよう祈りながら、一緒に祭りの日、神楽の宵を楽しむこと、それが人々にとってなによりの喜びなのです。

現在では、神社祭礼での奉納や地域のイベントでの上演にとどまらず、ホールの舞台で舞う機会が増え、照明効果や音響効果を取り入れた公演や、現代アーティストとコラボするなど、新たな「魅せる」挑戦をしています。

その一方で、昔ながらの舞を楽しもうという伝統を守るための取組も行われています。石見地域の神



大元神楽の綱貫の神事（江津市）



傘鉾が飾られた地域のお祭り（邑南町）



奉納神楽を楽しむ人々（浜田市）

楽の持つ多様性、多面性、時代に寄り添う柔軟性も、人の心を惹きつける魅力です。

○地域を飛び出す石見神楽

江戸時代後期から明治期にかけて、広島県境や山口県境を中心に周辺地域にも影響を与えた石見神楽。全国にその名が知れ渡ったのは、1970 年に大阪で行なわれた日本万国博覧会のメインステージにおける石見神楽の演目「大蛇」の上演がきっかけでした。「大蛇」は八岐大蛇神話を元にした演目で、それまで 1 頭から 2 頭の「大蛇」が出てくるのが一般的でしたが、大きなステージで魅せるため、はじめて 8 頭以上の「大蛇」に挑戦し、その迫力で観客を圧倒しました。これを機に多くの「大蛇」が出てくるようになり、県内外に知られるようになったほか、個々の神楽団体での活動だけではなく、神楽団体が連携して神楽公演を行う体制づくりができました。

現在では、そういった協力体制も定着し、国や他県から要望を受けて、個々の神楽団体や各市町の神楽連絡協議会単位での県外公演や海外公演も多く行われています。

○神楽とともに発展してきた地場産業

石見神楽面、金糸・銀糸をふんだんに用いた豪華な石見神楽衣裳、演目「大蛇」に用いる石見神楽蛇胴。これらは、いずれも和紙が使われており、石見の地「浜田」で生まれ、発展してきました。

石見神楽面は、粘土型に和紙を何層も貼り重ね、柿渋を塗ることで補強され、軽さと汗に強い耐久性を実現しています。また、舞の中で、一際存在感を放つ龍や虎などの動物や植物などの神楽衣裳の模様も和紙を土台に刺繍されます。更に、約 17m もある「大蛇」の蛇胴の躍動感あるリアルな動きを可能にしているのも、石州和紙の特性による所が大きいといえます。

石見神楽を語るうえで欠かすことのできない「面・衣裳・蛇胴」に共通する、なくてはならない材料、それが石州半紙に代表される石見の和紙でした。この和紙なくして、石見神楽のものづくり産業は成立しえなかったのです。また、その技術は石見神楽にとどまらず中国地方の神楽に大きな衝撃と影響を与え、瞬く間に広まりました。

ひと言で「神楽」といってもその姿は地域によって様々です。出雲や備後など他の地域と接した土地では、双方で影響しあいながら奏楽や演目が成り立ちました。

また、山間部では、ゆるやかな奏楽と舞で人々の心を癒し、沿岸部では弾けるような奏楽に乗せた激しい舞で観る者の心を沸き立たせます。同じ信仰や流れを汲みながらも、それぞれの集落で、その土地の特徴ある舞が受け継がれてきました。

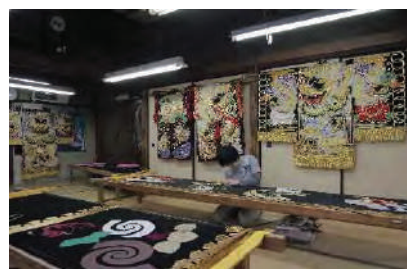
それぞれ個性はあれども、舞う場所が変われども、変わらないのは郷土を想う心、それがここ石見地域で伝承される「神楽」なのです。



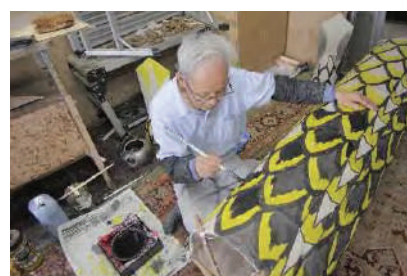
1970 年大阪万博での「大蛇」上演



石見神楽面工房



石見神楽衣裳の工房



石見神楽蛇胴の彩色風景



毎週土曜日開催の石見神楽定期公演

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	おおもとかぐら 大元神楽	国無形民俗	数年に一度の式年祭 しきねんさい の日に執り行われる。一連の神事の中で託宣による神がかりが行われるところが一番の特徴。	江津市、川本町、美郷町、邑南町 (邑智郡大元神楽伝承保存会)
②	いわみかぐら 石見神楽	未指定 (無形民俗)	いわみ石見地域で神職により伝えられていた神楽が明治以降に民衆に受け継がれた氏子神楽 うじこ 。石見地域一帯に伝わりその団体数は 130 を超える。	浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町
③	かぐらきぼりめん 神楽木彫面	市有形民俗 (邑南町は未指定)	明治以前の和紙面が普及する前に主流となっていた神楽面。	浜田市、益田市、邑南町
④	いわみかぐらめん ながはまめん 石見神楽面(長浜面・市木面)	未指定 (工芸品)	明治期には、氏子 うじこ へ神楽が受け継がれ多くの団体が発生したため、量産可能な和紙で作られた面が普及した。邑南町の市木には、明治から昭和にかけて使用された面の型が現存している。	浜田市、大田市、江津市、邑南町
⑤	ながはまにんぎょう 長浜人形	未指定 (有形民俗)	江戸中期から始まったとされる伝統工芸品。土で作られた人形で、長浜人形制作の技法が石見神楽面(長浜面)の制作技法に応用されている。	浜田市、江津市
⑥	せきしゅうばんし 石州半紙	国無形 ユネスコ無形 文化遺産	地元で栽培された良質の楮 こうぞ を使用し、微細で強靱で光沢のある和紙。かつては、大阪の商人が石州半紙を帳簿に用い、火災のときは保存のため、井戸に投げ込んだと伝えられる。この水に強い特性が、石見神楽面 いわみかぐらめん における軽さと汗に強い強靱さを両立させていると言え、明治期には、木彫面 きぼりめん に代わって和紙面が普及することになった要因と言える。	浜田市
⑦	せきしゅうわし 石州和紙	未指定 (工芸品)	石州半紙 せきしゅうばんし に代表される石州和紙 せきしゅうわし の技術・技法は、石州半紙を漉く浜田市三隅町を中心とした職人の手で一貫されて保持されている。石見神楽面、石見神楽衣裳 いわみかぐらめん いわみかぐらしょう 、石見神楽蛇胴 いわみかぐらじゃどう 、幣などの採	浜田市

			り物などにも使用され、石見神楽では、 欠かすことのできない重要な素材と言える。	
⑧	井野神楽	県無形民俗	古風な演目や所作を残留させている 正調石見八調子神楽。井野八幡宮の 例祭を中心に舞われている。	浜田市(井野 神楽)
⑨	有福祉神楽	県無形民俗	正調石見八調子神楽。保持する 32 番 の演目すべてが指定を受けており、下 有福祉八幡宮の例祭を中心に舞われて いる。	浜田市(有福祉 神楽保持者会)
⑩	紙本墨書神楽台本	市有形 (古文書)	浜田西部の神職神楽に用いられたもの と考えられているこの台本は、「神宮 皇后三韓退治」「五神」「四神」「天神」 「八十神」の 5 演目が収められている。 石見神楽の発展、伝播を考える上で貴 重な資料となっている。	浜田市
⑪	紙本墨書藤井宗雄 著書	市有形 (典籍)	藤井 宗雄 が著した。著 書 中 の 「石見之國神社記」には、明治維新まで 神楽上演の場であった式年祭において 祀られる大元神が、所在地と共に描きあ げられている。	浜田市
⑫	石見神楽蛇胴	未指定 (工芸品)	提灯から着想を得て浜田市の植田菊市 氏により開発された。材料は竹と石州 和紙のみで長さは約 17m にも及ぶが驚 くほど軽量。この蛇胴の発明をきっかけ に「大蛇」が石見神楽における代表演 目となる。	浜田市、江津市
⑬	石見神楽衣裳 (刺繍衣裳)	未指定 (工芸品)	金糸・銀糸がふんだんに用いられた豪 華絢爛な神楽衣裳。特に「生き物」とい われる立体的な刺繍は、衣裳の命とも 言われている。	浜田市、江津市
⑭	烈女お初の碑	未指定 (建造物)	江戸時代の浜田藩邸で起こった、世に 知られる「鏡山事件」の主人公お初こと 松田察。主人の敵討ちを果たした烈女 として、歌舞伎や浄瑠璃の演目にもなる ほか、地元神楽社中の創作演目の題材 にもなっている。	浜田市
⑮	鏡山	未指定 (史跡)	歌舞伎の演目「鏡山 旧 錦絵」や石見 神楽の創作演目「鏡山」の主人公お初 が仕えた奥の中老岡本道女は、辞世の 歌を残し自害したが、その墓は浜田市 内にある鏡山「来福寺」境内にある。	浜田市

⑩	みかづらかぐら 三葛神楽	県無形民俗	石西でも珍しい六調子神楽の一つ。旧来の舞の手を保持し続けており、旧神職神楽の伝統を受け継ぐ。	益田市 (三葛 かぐらほじしやかい 神楽保持者会)
⑪	くしろかぐらまい 久城神楽舞	市無形民俗	170 年以上の歴史を持ち、独特なテンポと舞を受け継いでいる。(「双剣」「十羅」の 2 演目が指定)	益田市 (石見 かぐらほぞんかい 神楽保存会久城 社中)
⑫	たねかぐらまいにだい 種神楽舞二題	市無形民俗	160 年以上の歴史を持ち、地元に根ざし、伝統を受け継いでいる。(「鍾馗」「恵比須」の 2 演目が指定)	益田市 (種神楽 ほぞんかい 保存会)
⑬	みたにかぐら 三谷神楽	市無形民俗	明治初年(1868 年)に発足し、現在まで伝統を受け継いでいる。地元の例祭を中心に舞われ、郷土芸能を後世に伝えている。	益田市 (三谷 かぐらしやちゅう 神楽社中)
⑭	まるもかぐら 丸茂神楽	市無形民俗	明治中期から受け継がれた六調子、八調子系神楽。昭和 43 年に「板井川神楽社中」から「丸茂神楽社中」に改名し、今日に至る。	益田市 (丸茂 かぐらしやちゅう 神楽社中)
⑮	ひきみかぐら 匹見神楽	市無形民俗	明治中期に六調子神楽から始まった。一度継承は途絶えたが昭和 6 年(1931 年)にかつての団員が発起。八調子神楽を導入し現在に至る。	益田市 (匹見 かぐらしやちゅう 神楽社中)
⑯	みちかわかぐら 道川神楽	市無形民俗	明治 40 年頃(1907 年頃)発足し、六調子神楽から始まった。現在では八調子となり、英語訳の神楽にも取り組んでいる。	益田市 (道川 かぐらしやちゅう 神楽社中)
⑰	たねかぐら 多根神楽	市無形民俗	明治時代に三瓶町多根地区で始まったとされ、舞の種目は七座七種の能舞十八種。演目は「塩清め」「榊舞」「千早舞」「ござ舞」「四方幣」「手草舞」「四方剣」「芝佐」「国向けの舞」「吉利女」の他 8 番ある。六調子の優雅な舞であり、アメリカのディズニーランドでも親善公演を行う等、各地で公演している。	大田市 (多根 かぐらだん 神楽団)
⑱	たくの 宅野子ども神楽	市無形民俗	日本海に面する仁摩町宅野地区に江戸時代から伝わる地区内の小中学生が舞う神楽。演目は「清祓」「えびす舞」「鬼舞」「獅子舞」「八幡」「酒造り」「大蛇」がある。毎年、正月行事として地区内で舞われている。アメリカボストンの音楽祭東アジア子ども芸術祭で公演している。	大田市 (宅野子 ども神楽保存 会)

②5	ゆ の つ ち ょ う じ ゅ う よ う で ん と う て き 温泉津町重要伝統的 建造物群保存地区	国重伝建	世界遺産石見銀山の外港として栄え、 永く湯治場として名を馳せた温泉のある 町。平成 16 年(2004 年)に温泉町として は日本で唯一の国選定を受けた。現在 では毎週土曜日に石見神楽の定期公 演が実施されている。	大田市
②6	か ち じ ぼ ん し 勝地半紙	市無形民俗	楮が原料の強靱な紙質の和紙。大元 神楽において幣等の道具に使用されて いる。	江津市
②7	や と お お も と じ ん じ ゃ 八戸大元神社のムクの 木	市天然記念物	推定樹齢 400 年の神木で、大元神楽の 際には藁蛇を縛り付け託宣(大元神の お告げ)を受ける。	江津市
②8	お お も と か ぐ ら で ん し ょ う か ん 大元神楽伝承館	未指定 (有形民俗)	大元神楽の神楽面、幣などの採り物、 演目「綱貫」の模型の展示や、豊富な写 真や映像により、大元神楽の歴史の深 さや精神を伝える。また、著名な神楽研 究者である牛尾三千夫、竹内幸夫資料 一式が保管されており、神楽研究の上 で重要な資料も閲覧できる。	江津市
②9	い ち や ま は ち ま ん ぐ う 市山八幡宮	未指定 (建造物)	『石見国神社記』に「市山村飯尾山鎮座 八幡宮末社大元社」と記載される神社 で、舞殿では 6 年に 1 度、大元神楽 式年祭が執り行われる。社のすぐ裏に ある杉の神木には、大元神楽の託綱 (藁蛇)が巻かれる。	江津市
③0	こ し き 甑	未指定 (有形民俗)	古来(明治時代頃)から現在に至るま で、勝地半紙の製作に使用されてきた 巨大な楮蒸し器。神楽の演目 「八岐大蛇」に出てくる「大蛇」の組み手 で、とぐろを 3 段に巻いた形が「こしき」と 呼ばれている。	江津市
③1	ま る や ま じ ょ う あ と 丸山城跡	県史跡	天正 13 年(1585 年)に完成したとされる 総石垣造りが特徴の城跡で、地元の神 楽団の創作神楽の題材にもなっている。	川本町
③2	つ が に し か ぐ ら 都賀西神楽	町無形民俗	演目「山伏」は小尾山八幡宮の例大祭 で 3 年に 1 度上演され、美郷町の文化 財指定を受けている。	美郷町(都賀 西神楽保存会)
③3	み や こ か ぐ ら 都神楽	町無形民俗	演目「天の岩戸」は『古事記』『日本 書紀』に記されている天岩戸開の神話 を神楽化したもので、美郷町の文化財 指定を受けている。	美郷町(都神 楽団)

③④	オロチカツラ	県天然記念物	樹齢 500 年のカツラの大樹で神楽の演目にもある八岐大蛇 やまたのおろち のように8本の支幹 しかん を株立ちさせていることからオロチカツラと呼ばれている。	美郷町
③⑤	鍔絵 こてえ	未指定 (工芸品)	鍔絵 こてえ といわれる漆喰 しこうき のレリーフ。中には、神楽演目にもある「鍾馗」がデザインされたものもある。	美郷町
③⑥	蟠龍峡 ばんりゅうきょう	未指定 (名勝)	美郷町にある溪谷を觀賞できる景勝地。「髪掛けの松」の伝説があり、地元の都神楽団 みやこかぐらだん の創作演目にもなっている。	美郷町
③⑦	まつおやまはちまんぐう 松尾山八幡宮	未指定 (建造物)	秋の例大祭には、奉納神楽、竹灯籠 たけとうろう のイベント「伝統芸能と光の祭典」が開催される。	美郷町
③⑧	すぎおかぐら 榎尾神楽	町無形民俗	市木の神楽は明治 10 年頃(1877 年頃)に、三上峯尾氏(田所)という人物により伝えられて始まったとされる。所作がゆったりとして優雅さにあふれている点が特徴で、多種多様な奏楽とともに、伝統的な神楽を現在に伝えている。	邑南町 (榎尾神楽団) すぎ お か ぐらだん
③⑨	ゆきた かぐら 雪田神楽	町無形民俗	明治時代初期、賀茂神社 かもしんじや (阿須那)の斎藤式部宮司により伝えられた「七座」の舞が、変遷を経て雪田神楽として受け継がれ、現在に至る。演目「岩戸 いわと 」は邑南町の無形民俗文化財指定を受けている。	邑南町 (雪田神楽団) ゆきた か ぐらだん
④⑩	おんはな もくろく 御花の目録	未指定 (古文書)	神楽団への寄付を行った人の名前を記した目録。地域によっては金額を大げさに書いたり、おめでたい絵を描いたりするなど、ユーモアあふれるものが多く、筆上手な人がその場で書いていた。現存する 2 点は昭和中期のものと思われる。	邑南町
④⑪	おんじゅうさいしのきしき 年中祭祀之規式	未指定 (古文書)	大元大明神 おおもとだいみょうじん の祭りとして、「祭祀子辰申四年二一度九月十日一夜之神楽ヲ奏ス郡内祀官行之」という記述がみられ、近隣の神官たちにより式年の神楽が執り行われていたことが分かる文書。時期は天正 4 年(1576 年)、賀茂神社 かもしんじや (邑南町中野)所蔵で、大元神楽 おおもとかぐら の原型を垣間見ることができる資料。	邑南町

④②	ざしきかぐら 座敷神楽	未指定 (無形民俗)	ひぬい 日貫地区にある江戸時代の豪農屋敷で、大元神楽を観光資源として活用しようと、定期的に行っている神楽。室内の座敷で神楽を舞い、郷土料理などを振る舞う。	邑南町
④③	やなぎかぐら 柳神楽	県無形民俗	六調子神楽でかつての神職神楽の舞振りがよく伝えられている。明治初年に付近一帯の総氏神である津和野町池村の三渡八幡宮宮司 水津運興から津和野町柳村の氏子に伝授され始まり、天井から吊るされクモ(天蓋)の下、一間四方の範囲で舞う仕来りが守られ、「神楽」「塩祓い」「四剣」「十羅」「岩戸」などの曲目を保持している。	津和野町 (柳 神楽保持者会)
④④	やなぎかぐら 柳神楽の面と衣装	県有形民俗	永正 3 年(1506 年)の年号が刻銘された鬼の面をはじめ、三渡八幡宮宮司 水津家伝来の 19 点の古面と千早など 34 着の古衣装が残る。	津和野町 (柳 神楽保持者会)
④⑤	みわたりはちまんぐう 三渡八幡宮	県有形 (建造物)	津和野町池村に位置し、丘陵上に社地を構える。正面より拝殿・本殿を配置し、拝殿手前の脇に神楽殿を配置する。本殿は、享保 3 年(1743 年)建立。明治より前まで当社の祭礼にはいわゆる「舞」として神職神楽が舞われた。幕末から明治にかけての社寺整理により、「舞」は消滅の危機に陥ったが、宮司水津家により柳村の若者たち伝授され、「柳神楽」として現在に残る。	津和野町
④⑥	たいこだに いなりじんじや 太鼓谷稲成神社	未指定 (建造物)	津和野城の城山の一角にある神社で、安永 2 年(1773 年)に津和野藩主 亀井矩貞によって創建された。日本五大稲荷の一社に数えられ、津和野町の主要な観光スポット。秋季には石見神楽の定期公演が行われる。	津和野町
④⑦	ぬくつきかぐら 抜月神楽	県無形民俗	六調子のゆったりとした舞に単純な所作を特徴とする。演目は石見神楽の古い形を伝える「山舞」と呼ばれる他にない舞いや、「胴之口開」「塩祓」などがある。	吉賀町 (抜月神 楽団)
④⑧	くろぶちかぐら 黒渕神楽	町無形民俗	六調子の静かな舞。抜月神楽と同様に津和野町左鐙の潮山八幡宮の宮司によって伝えられた。	吉賀町 (黒渕 神楽社中)

④9	しらたにかぐら 白谷神楽	町無形民俗	従来は神職が舞っていたものを地域の人が舞うようになったのが始まり。最初は六調子であったが、後に八調子に変わった。囃子 ^{はやし} は八調子であるが、舞の中には六調子の形が今でも残っている。	吉賀町（白谷 ^{しらたに} 神楽社中 ^{かぐらしゃちゅう} ）
⑤0	あたごじんじゃ しやそう 愛宕神社の社叢	町天然記念物	黒瀧神楽 ^{くろぶちかぐら} が奉納されている神社で、その社叢 ^{しゃそう} には、神殿に上る階段の途中に根元周り約 7 メートルで、樹齢が千年を超えると言われていた大杉がそびえ、吉賀町の天然記念物にも指定されている。また、島根県の名樹 100 選にも選ばれている「ケンポ梨」は、秋に落ちる実は枳もちとして食用にもされる。	吉賀町
⑤1	けんぎょくじんじゃ 剣玉神社	未指定 (建造物)	ぬくつきかぐら ^{ぬくつきかぐら} 抜月神楽が奉納されている神社で、秋の例大祭では毎年神楽が奉納される。	吉賀町
⑤2	かくずし はこずし おし 角寿司(箱寿司・押し ずし 寿司)	未指定 (無形民俗)	地域の祝い事には欠かすことのできない石見 ^{いわみ} の味。神社で行われる奉納神楽において振る舞われることもある。	浜田市、益田市、大田市、江津市、川本町、美郷町、邑南町、津和野町、吉賀町

構成文化財の写真一覧

1 おおもとかがくら
大元神楽



2 いわみかがくら
石見神楽



3 かぐらきぼりめん
神楽木彫面



4 いわみかがくらめん ながはまめん いちぎめん
石見神楽面 (長浜面・市木面)



5 ながはまにんぎょう
長浜人形



6 せきしゅうばんし
石州半紙



7 ^{せきしゅうわし} 石州和紙



10 ^{しほんぼくしよかぐらだいほん} 紙本墨書神楽台本



8 ^{いのかがら} 井野神楽



11 ^{しほんぼくしよふじいむねおちしよ} 紙本墨書藤井宗雄著書



9 ^{ありふくかがら} 有福神楽



12 ^{いわみかがらじゃどう} 石見神楽蛇胴



13 ^{いわみかぐらいししょう ししゅういししょう} 石見神楽衣裳 (刺繍衣裳)



16 ^{みかづらかぐら} 三葛神楽



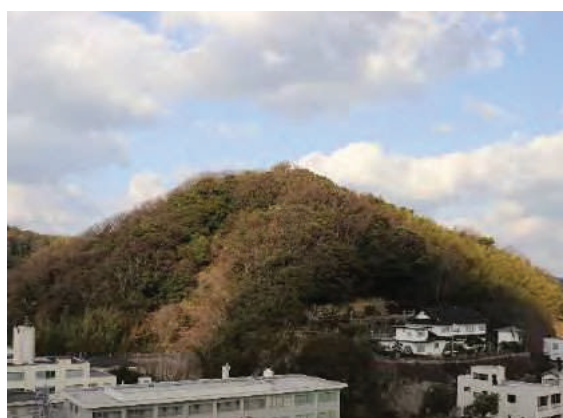
14 ^{はつ ひ} お初の碑



17 ^{くしろかぐらまい} 久城神楽舞



15 ^{かがみやま} 鏡山



18 ^{たねかぐらまいにだい} 種神楽舞二題



19 ^{みたにかぐら} 三谷神楽



22 ^{みちかわかぐら} 道川神楽



20 ^{まるもかぐら} 丸茂神楽



23 ^{たねかぐら} 多根神楽



21 ^{ひきみかぐら} 匹見神楽



24 ^{たくの} 宅野子ども神楽 ^{かぐら}



ゆのつちようじゅうようでんとうてまけんぞうぶつぐんほんぞんちく
25 温泉津町重要伝統的建造物群保存地区



おおもととかぐらでんしょうかん
28 大元神楽伝承館



かちじばんし
26 勝地半紙



いちやまはちまんぐう
29 市山八幡宮



やとおおもとじんじや
27 八戸大元神社のムクの木



こしき
30 甕



31 まるやまじょうあと
丸山城跡



34 オロチカツラ



32 つがにしかがら
都賀西神楽



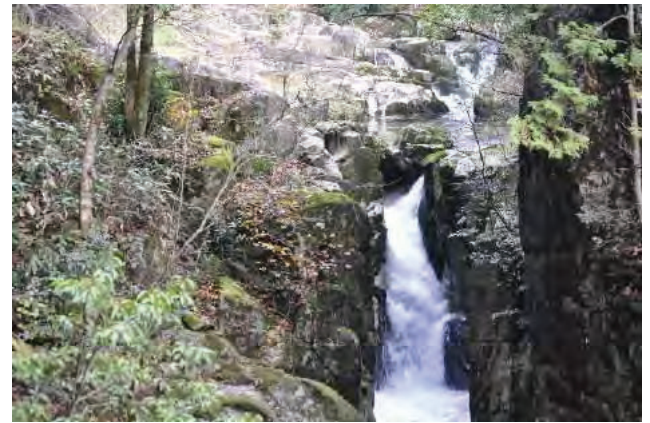
35 こてえ
鰻絵



33 みやこかぐら
都神楽



36 ぼんりゅうきょう
蟠龍峡



37 まつおやまはちまんぐう 松尾山八幡宮



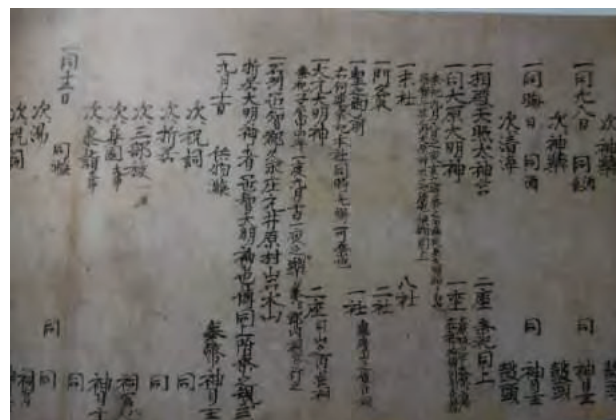
40 おんはな もくろく
御花の目録



38 すぎおかぐら 榎尾神楽



41 年中祭祀之規式



39 ゆきたかぐら 雪田神楽



42 ざしきかぐら 座敷神楽



やなぎかぐら
43 柳神楽



たいこだに いなりじんじや
46 太鼓谷稲成神社



やなぎかぐら
44 柳神楽の面と衣装



ぬくつきかぐら
47 抜月神楽



みわたりはちまんぐう
45 三渡八幡宮



くろぶちかぐら
48 黒渕神楽



49 しらたにかぐら
白谷神楽



52 かくずし はこずし
角寿司 (箱寿司・押し寿司)



50 あたごじんじや しやそう
愛宕神社の社叢



51 けんぎよくじんじや
剣玉神社



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
79	神々や鬼たちが躍動する神話の世界

(1) 将来像 (ビジョン)

地域の人々の手により脈々と受け継がれてきた石見地域(9市町)の神楽は、現在130を超える保持団体が存在し、その担い手は、就学前の子どもから70歳、80歳代の重鎮までがその継承活動に関わり幅広い世代に愛される伝統芸能である。また、現在では、地域の観光資源として活用されるほか、「石見神楽を続けたい」という理由で故郷に残り、地元で就職する若者も少なからずいるなど、若年層の定住という意味でもとても心強い存在となっている。石見神楽の公演は奉納だけでなく、イベントや定期公演、神楽大会、さらには結婚披露宴でも舞われるなど地域の生活に溶け込み、誇りと情熱をもって舞う姿は、子どもたちにとってまさにヒーローである。この石見の地で発展した他にはない独自の文化は、将来像において保存・継承されるべきものである。一方で、人口減少や少子高齢化という課題に直面する当地域において、人口減少を食い止めるためには、地域にとって魅力的な雇用の場を維持・創出する必要がある。こうした中、豊かな自然や歴史文化などの観光資源を有する石見地域において、観光産業は今後も成長が期待できる重要な産業であり、石見地域にまたがるストーリー『神々や鬼たちが躍動する神話の世界～石見地域で伝承される神楽～』は、他の地域では見ることのできない神楽と密接に関わる魅力的な観光資源となっている。将来像においては、日本遺産を活用した観光振興を柱とした以下の取組を実施する。

①観光の高付加価値化事業

「石見神楽」を軸に、面、衣裳、蛇胴などのこの地域独自の発展してきた「神楽産業」や海や山の豊かな「食」を活用した「ここでしか体験できない」特別性・希少性のあるコンテンツを造成し、魅力ある文化資源の価値を向上させるとともに消費拡大による地域活性化に取り組む。

②積極的な情報発信

石見神楽の首都圏での興味関心度は、約14%であり、更なる認知向上に取り組み誘客に繋げる必要がある。そのため、SNSやWEBサイト等による情報発信の強化に加えて、県外公演による認知度向上を継続的に行う。インバウンドについては、日本文化に関心が高い欧米豪を中心に情報を発信する。特に、大阪・関西万博では、6月と7月に石見神楽公演が決定しており、世界に発信する機会とするとともに、1970年の万博出演が石見神楽の発展に繋がったように、2025年の万博出演を石見神楽の新たな未来へと繋げるものとする。

③石見9市町と(公社)島根県観光連盟石見事務所、神楽団体と連携した広域観光

石見地域では、温泉地や駅前、神社の境内など16ヵ所において、毎週末に神楽の定期公演を開催し、年間の観覧者数は約15,000人、石見地域に9名以上で泊まることで、宿

泊施設等に神楽団体を派遣し貸切で石見神楽を観覧できる出張上演事業は、年間約 2,500 人が利用する。さらに、9 月～11 月には、奉納神楽が集中する時期であることから「石見の神楽在月（いわみのかぐらありづき）」と題して、特設サイトや奉納神楽情報、プレゼントキャンペーン等を実施し、石見地域全体での広域観光に取り組んでいる。こうした、地域の重要な観光資源である神楽を軸に、単一の市町では困難な観光振興や交流人口拡大の更なる推進を図る。

④神楽の伝統を受け継ぐ後継者の育成

構成地域内での小中学校では、総合的な学習を通じて守り伝えられてきた神楽の伝統を受け継ぐ後継者の育成に加え、地域に対する愛着を強化し、郷土愛の醸成につなげる取組がある。

学校での学習を通じて、石見神楽の体験だけでなく舞手の思いや、やりがいなども対話を通じて学習することで、神楽のある自分の地域への自信と誇りを持ち地域活性化の契機とする。

（２）地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ａ：石見神楽定期公演での観光入込客数

年度	実績※2024 の数値は暦年			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	9,428 人	13,558 人	14,662 人	15,500 人	16,500	17,500 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	石見地域 16 カ所で週末に開催している定期公演の観覧者数を指標とする。観覧料を徐々に値上げしたが、県外からの観覧者数は好調。一方で、地域住民の観覧者は微減している状況であり、目標値については、毎年 1,000 人の増加を見込む。					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標①－Ｂ：石見神楽出張上演制度での観光入込客数

年度	実績※2024 の数値は暦年			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	3,279 人	2,082 人	2,481 人	2,700 人	2,900 人	3,100 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	石見地域域に 9 名以上で泊まることで、宿泊施設等に神楽団体を派遣し貸切で石見神楽を観覧できるプラン。観覧者数を指標とし、1 団体 20 名前後の利用と仮定して、毎年 10 団体 200 名の増加を目標値とする。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域住民が石見神楽を誇りに思う割合						
年度	実績			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	96%	97%	97%	97%	97%	97%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		石見神楽定期公演会場や神楽大会、神楽の展示等の参加者にアンケートを実施し、アンケート集計のうち肯定割合で算出。高い結果であることから現状維持を目標とする。				

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：石見神楽定期公演の観覧料の総額						
年度	実績※2024の数値は暦年			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	11,123 千円	13,981 千円	17,332 千円	18,832 千円	20,332 千円	21,832 千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		日本遺産を体験・体感することができる石見神楽定期公演の観覧料の総額。定期公演の観覧料は、500 円から徐々に値上げを行っており、現在は、集客の観点から公演会場によって、1,000 円～2,000 円で徴収している。目標値については、毎年、観覧者が1,000 名増加すると仮定し、1,500 千円の増加を見込む。				

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産に係るふるさと納税等の寄附額						
年度	実績※2024の数値は暦年			目標		
	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	33,257 千円	290,534 千円	303,170 千円	304,000 千円	304,500 千円	305,000 千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法		構成市町の日本遺産に係るふるさと寄附額を指標する。構成市町においては、様々な取組により寄附額の増加を図っているが、自治体間競争が過熱する中、本来の「ふるさと納税」の趣旨や目的を逸脱することなく、全国のみなさまから応援していただけるよう現状寄附額の増加または維持を目標とする。				

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：石見地域の宿泊者数						
年度	実績※2024 は見込み			目標		

	2022	2023	2024	2025	2026	2027
数値	725,968 人	728,483 人	771,100 人	781,124 人	791,278 人	801,564 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	島根県が実施している観光動態調査の宿泊者数を指標とし、目標値については、毎年 1.3%増を見込む。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

【現状と課題】

- ・観光消費額の拡大及び旅行商品の販路拡大
- ・首都圏の石見神楽の興味関心度は約 14%程度であり、更なる認知度向上
- ・外国人旅行者の認知度向上
- ・神楽衣裳等は非常に高額で、神楽団体の財政状況の改善

現状と課題を踏まえて、次の 7 つの事業を柱に実施する

① 定期公演事業

石見地域では、温泉地や駅前、神社の境内など 16 ヲ所において、毎週末に神楽の定期公演を開催し、観覧料は、1,000 円～2,000 円を徴収。定期公演の観覧者は、2022 年度 9,428 人、2023 年度 13,558 人、2024 年度 14,662 人の観覧者があり、この地域の観光振興の核となっており、更なる観覧者の増加に向けて取り組みを継続する。

② 出張上演事業

石見地域域に 9 名以上で泊まることで、宿泊施設等に神楽団体を派遣し貸切で石見神楽を観覧できるプラン。旅行会社の旅行商品造成を促進し、宿泊者を増加させることで、地域経済の活性化を図るとともに収益は神楽団体への上演謝金となり、高額な神楽衣裳等の修繕や更新の貴重な財源となっている。出張上演の利用団体数（利用者）は、2022 年度 101 件（3,279 人）、2023 年度 74 件（2,082 人）、2024 年度 93 件（2,481 人）となっており、継続する。※2022 年度は、新型コロナウイルスの影響により、県外での就学旅行が減る一方で、県内学校の修学旅行需要の取り込みに成功、2023 年度～2024 年度は就学旅行需要が減少するも増加傾向にあり、更なる利用促進に向けて取り組みを進める。

③ 観光の高付加価値化と販路拡大

石見神楽を軸に、「神楽産業」「食」を活用したコンテンツを造成し、魅力ある文化資源の価値を向上させ、消費拡大を図る取り組みを継続する。10 万円を超える高付加価値であることから、販路拡大、プロモーションを行い、看板商品として定着するようコンテンツのブラッシュアップを行うとともに、OTA や大手旅行会社での販売を拡大する。

【コンテンツ 1】

神楽産業の職人との交流・体験&スペシャル弁当付き浜田の石見神楽 プレミアム観覧席 ツアー！

- ・石見神楽面、衣裳、蛇胴の工房では、職人からの説明に加えて、衣裳の着付け体験や交流を行うことで、石見神楽を支えるものづくり文化を深く知る機会を提供。
- ・おろち弁当は、石見神楽の代表演目「大蛇」を模したアナゴ寿司をメインに、地元食材を普段に使ったメニューを考案。さらに、お弁当の水引には、衣裳製作に使用する金糸

を活用するなど細部に拘った仕様。食事は、神社内に黒畳、机、座椅子、座布団、照明など特別に設えた空間で、石見神楽を観覧しながら堪能。石見神楽上演後は、舞い手との交流や大蛇の大技「大輪」の中に入っの記念撮影など特別な体験を満喫。



【コンテンツ 2】

IWAMI KAGURA STAY

- ・ 事前オンラインと現地ツアーを組み合わせた観光コンテンツ。数日前にオンラインツアーで石見神楽を学び、その後の現地ツアーでは、石州和紙の紙すき体験や神楽産業を周遊し、石見神楽の歴史や文化を体感。
- ・ 神楽団の練習場では、実際に衣裳を身に着け、舞手からレクチャーを受けながら演舞するプチ神楽体験。
- ・ 食事は地元の食材を使用した和食と古民家を活用した会場にて特別感を演出、寿司の握り体験も行い地元の魅力を満喫。



④ プロモーション事業

石見神楽の興味関心度は首都圏で 14%、関西・九州・山陽圏で約 17%であり、更なるプロモーション強化により認知度の向上を図る。

- ・ 従来より、往来が多い山陽圏に向けては、テレビ局や新聞社とのメディアリレーションを強化し、地上波やタウン誌など各種媒体での露出増加を図る。
- ・ 全国に向けた情報発信は、島根県の観光情報ポータルサイトへの統合により発信力を強化しており、コンテンツの充実により関心の喚起を図る。
- ・ 県外公演による認知度向上

石見神楽国立劇場公演や御堂筋ランウェイ、東京富岡八幡宮公演、京都八坂神社での公演など、引き続き県外公演を継続的に実施し、認知度向上による観光客の増加を図る。

また、2025 大阪・関西万博では、6 月と 7 月に石見神楽公演が決定しており、世界に発信する機会とする。さらに、万博では、子ども神楽の上演も企画し、石見神楽の新たな未来へと繋がる機会とする。

⑤ インバウンド誘客事業

地域の伝統・文化に関心が高いとされている欧米の旅行者をターゲットとし、情報発信、誘客を強化する。

- ・ 大阪・関西万博を契機とした関心の高まりや来訪者の増加を捉えた、旅マエでの情報発

信、旅ナカでの案内機能、受け入れ環境の充実

- ・ 関西や広島経由の誘客を狙い、バス料金の割引により関西、広島からの誘客を実施
- ・ 外国人を対象としたモニターツアーの実施や、日本在住フランス人 YouTuber チャンネルを利用した情報発信
- ・ 海外旅行会社(台湾・フランスなど)を対象とした商談会への参加

⑥次世代への継承のための取り組み

学校教育では、「ふるさと教育」において、児童生徒が文化財の魅力に触れる機会を設け、一層文化財に興味・関心を持つような手法を検討し石見9市町の学校現場や教育委員会と連携を強化し取組を進める。

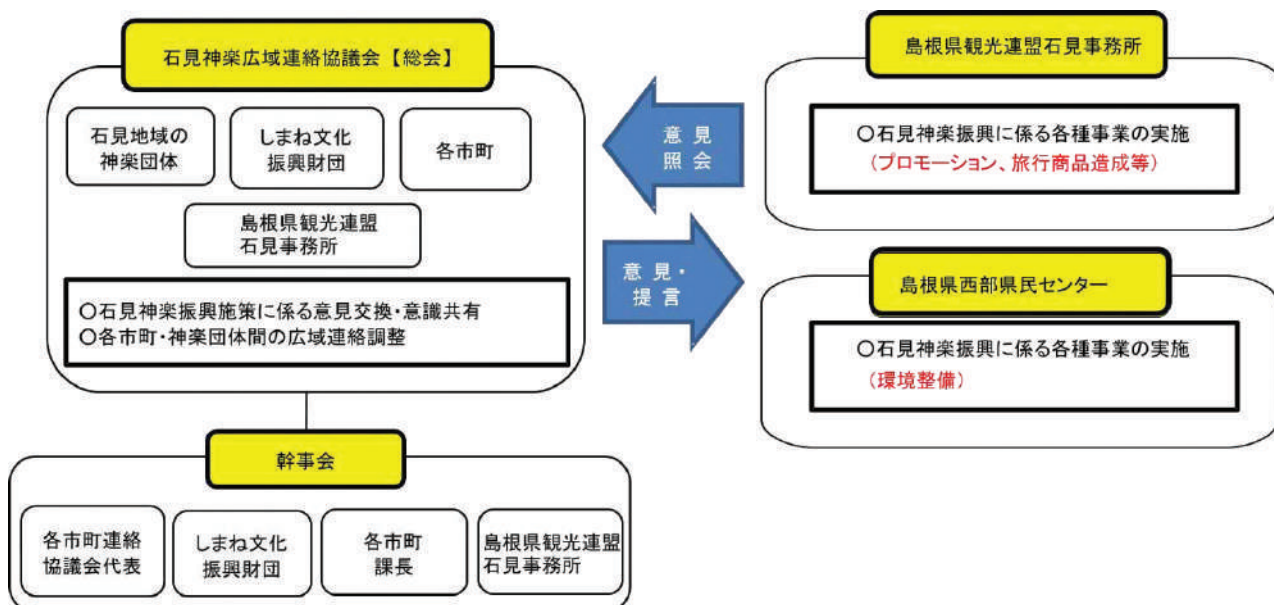
⑦ふるさと寄附を活用事業

構成市町においては、ふるさと寄附条例に寄附金の活用先として「石見神楽等の伝統芸能の継承に関する事業」と明記し、高額な神楽衣裳等の更新や認知度向上による観光客増加のためのプロモーション事業の財源として活用している。衣裳等の更新は、団員のモチベーションアップや後継者の育成など神楽団体の活性化が図られ観光振興に繋がり、神楽産業の受注増加による産業振興も図られており、引き続き実施する。

(4) 実施体制

石見地域では、県、市町、観光協会、商工会議所・商工会、民間団体が連携した「石見観光振興協議会」を平成12年に設立し、地域が一体となり観光振興を推進する体制をつくった。令和6年3月をもって石見観光振興協議会は発展的に解散し、令和6年4月からは新設した(公社)島根県観光連盟石見事務所がその業務を引き継ぎ、市町等と連携した石見地域の広域観光を推進している。

また、石見地域の130を超える神楽団体と市町、県などからなる「石見神楽広域連絡協議会」を平成25年に設立し、石見神楽の振興について意見交換や意識共有を図るなど、課題やその解決策に向けた取組を行っている。



[人材育成・確保の方針]

石見観光振興協議会は事務局を県の地方機関である西部県民センターに置き、石見地域の9市町からの職員派遣も受け、県、市町が一体となり運営してきた。

その業務を令和6年4月からDMOとなった島根県観光連盟石見事務所が引き継ぎ、県・市町からの派遣職員、観光連盟職員が石見地域の広域観光振興を担っている。

令和6年度からマーケティングの視点に基づく観光消費額の拡大に向け、地域内の人材により継続的な取り組みが可能となるよう、データ収集・分析のノウハウや分析結果を活用した観光施策立案・実施についての研修を行い、市町、観光協会、支援機関、大学、事業者など関連機関から幅広い参加を得ている。この中でも神楽も重要なコンテンツと捉え石見神楽広域連絡協議会の事務局を担っており、神楽の活用と継承について議論を深めていきたいと考えている。また、島根県観光連盟石見事務所としては、マーケティングの視点に基づく事業計画の策定や誘客施策の強化を図るため、民間企業のノウハウ活用を目的とした職員配置も検討している。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

市町、観光協会、商工会議所・商工会、民間団体による負担金をはじめ、観光振興事業へ手数料が入る自販機設置などによる財源確保や民間活力の活用を図り、継続した取組を進めている。

主要事業である「定期公演」や「出張上演」については、観覧料、利用料を徴収し継続して運営を行うとともに、ふるさと寄附を財源とした取り組みを進める。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

①定期公演及び出張上演の収益還元

石見地域16カ所で毎週末に開催されている神楽の定期公演や石見地域に9名以上で宿泊することで利用できる出張上演は、利用者数が年々増加し、収益は神楽団体への上演謝金として還元、高額な神楽衣裳等の修繕や更新の貴重な財源となるとともに、観光振興にも資する事業であり継続して実施する。

②高付加価値化ツアーの販路拡大と収益還元

石見神楽を軸に、「神楽産業」「食」を活用した高付加価値化ツアーは、大手旅行会社からも評価が高く、ツアーの収益は神楽団体や神楽産業の工房に謝金として還元するよう価格設定を行っている。現在は、大手旅行会社やOTAにて販売を開始しているが、10万円を超える価格帯でもあり、継続的な販路の拡大、プロモーションを行い、看板商品として定着するよう取り組み、観光客増加と消費拡大による地域経済の活性化と神楽団体や神楽産業の収入増加を図る。

③ ふるさと寄附を活用した取組み

ふるさと寄附条例に寄附金の活用先として「石見神楽等の伝統芸能の継承に関する事業」など6事業を明記し、寄附者は寄附金の活用事業を選べる仕組み採用している。ふるさと寄附を活用して次の取り組みを行う。

・高額な神楽衣裳など神楽用具の更新に係る支援制度

1着数百万円にもなる神楽衣裳などの用具の更新は、神楽団体の財政運営において大きな負担であることから、ふるさと寄附を財源に、高額な衣裳等の更新に係る費用を支援す

る。本事業により、団員のモチベーションアップや後継者の育成など神楽団体の活性化が図られ観光振興にも繋がっている。また、衣裳、面、蛇胴等の神楽産業の受注増加による産業振興も図られている。

・認知度向上による観光客増加のためのプロモーション事業

石見神楽は、地域内だけでなく県外からも多くのファンに支えられており、ふるさと寄附を財源に石見神楽国立劇場公演など県外プロモーションにも積極的に取組み、観光客増加や新たなファン獲得を図っている。また、2025年の大阪・関西万博では、世界に石見神楽を発信する絶好の機会であることから、ふるさと寄附を財源に石見神楽公演の開催が決定、さらに、子ども神楽の上演も企画し、石見神楽の新たな未来へと繋がる機会とするよう取り組んでいる。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	市町及び神楽団体等が一体となった体制づくり		
概要	日本遺産構成自治体である9市町、各地域で神楽社中を取りまとめる協議会会長をメンバーとし、観光での活用や継承など神楽の振興施策に関して幅広く議論や情報交換を目的として設立された。総会や幹事会での議論、意見交換の内容は、各市町や島根県観光連盟の施策・取組に反映される。また、神楽振興に寄与する企業・団体への感謝状贈呈、観光客へのおもてなしや鑑賞環境の充実に向けた講演等も実施している。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	石見神楽広域連絡協議会の運営	石見神楽の保存・継承の促進のため、関係団体の広域連携により、石見神楽振興施策にかかる政策議論の実施、情報交換及び情報共有を行う。 幹事会…年2～3回開催 総会…年1回開催	構成市町 神楽団体 観光連盟 観光協会 商工団体
②	機運醸成事業	石見神楽の保存・振興に理解ある取り組みを実施している企業へ感謝状の贈呈、また地方誌に掲載。	構成市町 神楽団体 観光連盟 観光協会 商工団体
③	おもてなし受入体制充実のための講演会	観光客がより満足度を感じてもらうためのノウハウや他市他県での取組を学習する講演会を実施。	構成市町 神楽団体 観光連盟 観光協会 商工団体
④			
年度	事業評価指標		実績値・目標値

2022	石見神楽広域連絡協議会幹事会及び総会の実施回数	3 回
2023		3 回
2024		3 回
2025	石見神楽広域連絡協議会幹事会及び総会の実施回数	3 回以上
2026	石見神楽広域連絡協議会幹事会及び総会の実施回数	3 回以上
2027	石見神楽広域連絡協議会幹事会及び総会の実施回数	3 回以上
事業費	2025 年度：640 千円 2026 年度：640 千円 2027 年度：640 千円	
継続に向けた事業設計	石見神楽広域連絡協議会の構成員には、神楽団体だけでなく、9 市町の首長を含め、日本遺産の保存・活用を盛り込んだ政策を検討し、島根県観光連盟と市町、神楽団体、観光協会、商工団体等、地域が一体となった石見地域の取り組みを推進する。	

(事業番号 1 - B)

事業名	島根県観光連盟石見事務所による広域観光の推進		
概要	島根県の総合戦略に基づき、地域資源を活用した観光地域づくり、情報発信、国内外からの観光客誘客など、石見地域の広域観光振興の推進を目的とした様々な施策を立案・実施している。 また、石見 9 市町で策定されている文化財保存活用地域計画や総合振興計画(マスタープラン)に記載される日本遺産を活かした地域づくりの実現に向けて、文化財の保存・活用を中長期的に推進している。 神楽でつながった石見 9 市町の広域的な取組により、地域間の交流による活性化が期待でき、スケールメリットを活かした観光誘客の効果により各市町と一体となった地域振興に繋げる。 それぞれの取り組みについては、石見神楽広域連絡協議会や各市町、観光協会、商工団体などと事業効果を検証し、見直しを行いながら年度ごとに事業計画を策定し事業を実施している。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	誘客促進事業 情報発信事業	定期公演、出張上演、インバウンド向け 2 次交通対策(広島-浜田、大阪-浜田等バス対策) 動画作成、WEB 広告、FAM ツアー、SNS、	観光連盟 構成市町 観光協会
②	機運醸成事業	石見神楽講座、子ども神楽体験教室、日本遺産ワークショップ、展示会等	観光連盟 構成市町 神楽団体
③	石見の神楽在月キャンペーン	石見の神楽在月特設ページの運営 石見の産品が当たるプレゼントキャンペーンの実施等	観光連盟 構成市町 観光協会
④	認知度調査事業	首都圏等認知度調査(石見版)、マーケティング戦略等	観光連盟
年度	事業評価指標		実績値・目標値

2022	観光連盟での石見神楽事業の実施数	5 事業
2023		5 事業
2024		5 事業
2025	観光連盟での石見神楽事業の実施数	5 事業以上
2026	観光連盟での石見神楽事業の実施数	5 事業以上
2027	観光連盟での石見神楽事業の実施数	5 事業以上
事業費	2025 年度：4,791 千円 2026 年度：4,791 千円 2027 年度：4,791 千円	
継続に向けた事業設計	島根県西部の観光振興を目的に持ち DOM となっている本連盟が観光振興の推進を担うことで、石見 9 市町のスケールメリットを活かした石見地域内外に向けた広域観光を迅速かつ円滑に実施することが可能となる。また、本連盟には県・市から派遣された職員も在籍しており、構成自治体との連携は長所ととらえ事業推進を図る。	

(7) - 2 戦略立案			
(事業番号 2 - A)			
事業名	マーケティングの視点に基づいた広域観光振興の推進		
概要	石見 9 市町で策定されている文化財保存活用地域計画や総合振興計画（マスタープラン）に記載される日本遺産の活用のうち、特に観光面での活用については、広域なエリアでの取組が必要となることから、マーケティングの視点を持ち、データ分析により課題を抽出し、施策を立案・実施する。また、その施策を関係機関、事業者等と役割分担を明確にしながら、効率的な連携を図り推進していく。 観光連盟石見事務所では 2024 年度に観光動態調査、宿泊利用データ、及び宿泊者アンケートの結果を詳細分析したうえで 2025 年度の事業計画を策定した。神楽の活用を含む各事業について、今後、継続的に効果検証を行いながら、対策の見直しを図っていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	観光データの分析	県観光動態調査、宿泊施設利用者データ、宿泊アンケートデータの収集・分析	観光連盟
②	分析結果の共有	関係機関、事業者等との情報共有を目的とした報告会の開催	観光連盟 構成市町 観光協会
③	現地ヒアリング	各市町、観光協会等の現状、課題の把握や意見交換を目的とした現地ヒアリングの実施	観光連盟 構成市町 観光協会

④	施策への反映	神楽を活用した広域観光施策の検討、立案	観光連盟
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	データ分析報告会等の観光連盟石見事務所が主催する研修		
2023			
2024			5回
2025	データ分析報告会等の観光連盟石見事務所が主催する研修		5回以上
2026	データ分析報告会等の観光連盟石見事務所が主催する研修		5回以上
2027	データ分析報告会等の観光連盟石見事務所が主催する研修		5回以上
事業費		2025年度：3,500千円 2026年度：3,500千円 2027年度：3,500千円	
継続に向けた事業設計		2024年度に実施した専門業者によるデータ分析結果に基づき、観光消費拡大を目的とした各事業の取組方針を検討。2025年度以降も神楽の活用を含む各事業の効果を確認するため、各種データの収集や情報共有を継続し、事業効果の拡大を図るため、関係機関への情報共有や研修を行っていく。	

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3-A)			
事業名	後継者育成等を行う民間事業者支援事業		
概要	地域が一体となって継続した石見神楽の保存・活用をしていくには、行政機関だけでなく民間事業所や社中団体内でも知識と経験を身に着け続ける仕組みが必要である。主体的に事業を展開する民間事業所を支援し、そのサイクルが回り続けるための仕組みを創出する。 【取り組み】 ・民間団体等が主体的に実施する子ども神楽体験教室等への支援 ※R5年度実績 6件		
	取組名	取組内容	実施主体
①	民間団体等が主体的に実施する子ども神楽体験教室の実施を支援	民間団体等が主体的に行う石見神楽の保存継承や後継者育成等の取り組みを支援し、人材育成を行う。	構成市町 神楽団体 観光連盟
②	石見神楽講座の開催	石見神楽に関する講演会や事例報告会を実施。	観光連盟
③	石見神楽ガイド養成講座	石見神楽について観光客へ説明ができるガイドを育成。	観光連盟

④	石見神楽検定「上級」の実施	石見神楽検定は「初級」と「上級」があり、上級の合格者数は、2019～2024 16人合格	商工団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	民間団体等が主体的に実施する子ども神楽体験教室の実施を支援		4回
2023			6回
2024			11回
2025	民間団体等が主体的に実施する子ども神楽体験教室の実施を支援		10回
2026	民間団体等が主体的に実施する子ども神楽体験教室の実施を支援		10回
2027	民間団体等が主体的に実施する子ども神楽体験教室の実施を支援		10回
事業費	2025年度：1,200千円 2026年度：1,200千円 2027年度：1,200千円		
継続に向けた事業設計	子ども神楽体験教室等の担い手育成を行う民間団体への支援を継続するとともに、ガイド等の育成を実施する。また、石見神楽に関する公演会等を開催し、地域人材の育成を図る。		
(7)－4 整備			
(事業番号4－A)			
事業名	ストーリー周知のための環境整備		
概要	地域住民及び来訪者に対して、定期的に日本遺産に触れることができる機会を創出することに加え、インバウンドにも対応できる教材を準備し幅広い対象者にストーリーを学べるソフト整備を行う。 また、石見神楽公演時の音響効果の改善を図り、より臨場感のある鑑賞体験の実現を目指す。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	石見神楽定期公演	石見神楽の鑑賞機会の増加のため、拠点施設での定期公演が継続実施できるよう、施設の環境整備を行う。 ・パンフレット作成、情報発信、神楽幕等の整備等	構成市町 神楽団体 観光連盟
②	インバウンド体制整備	多言語対応 ・演目紹介パンフレット、音声データ、演目紹介動画、WEBサイト	観光連盟 構成市町 観光協会

③	石見神楽公演会場の音響改善のための音響調査及び改善効果の検討（委託研究）	石見神楽の公演会場である神社拝殿の音響効果改善を目指し、現状の音響を調査する。さらに音響・臨場感の改善につながる可能性を、スピーカー種類の検討及び配置の検討により検証する。	観光連盟 構成市町 神楽団体
④	ストーリーを学べる観光コンテンツの販売拡大	神楽を支える面、衣裳、蛇胴の職人との交流体験や地元の食を楽しみながら神楽鑑賞を提供するコンテンツの販売拡大	構成市町 神楽団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	石見神楽定期公演の公演数		276 回
2023			362 回
2024			322 回
2025	石見神楽定期公演の公演数		350 回
2026	石見神楽定期公演の公演数		350 回
2027	石見神楽定期公演の公演数		350 回
事業費		2025 年度：6,066 千円 2026 年度：6,066 千円 2027 年度：6,066 千円	
継続に向けた事業設計		石見地域 16 ヶ所ある石見神楽定期公演を通じて日本遺産を学ぶ機会を提供する。神楽の体験や道具作り等のワークショップを地元社中、観光協会と連携しながら実施する。 石見神楽の継承・振興に協力的な企業も多く、独自で開催されるイベントでパンフレットの配布やストーリーの記載があるパネル展示を実施することで継続した周知機会を担保する。 この協働体制をより多数の社中・事業所に広げるため、協力団体に対し感謝状を贈呈し、地元新聞社が発行する機関誌へ掲載周知する。	

(7) - 5 観光事業化			
(事業番号 5 - A)			
事業名	日本遺産を活用したツアー商品等観光事業化		
概要	石見地域域に 9 名以上で泊まることで、宿泊施設等に神楽団体を派遣し貸切で石見神楽を観覧できるプランにより、旅行会社の商品造成を促進し、観光客の増加を図る。また、神楽を軸に、「神楽産業」「食」を活用した高付加価値コンテンツを造成し、魅力ある文化資源の価値を向上させ、消費拡大に継続して取り組み、F A M ツアー等による販路開拓を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	出張神楽上演	石見地域域に 9 名以上で泊まることで、宿泊施設等に神楽団体を派遣し貸切で石見神楽を観覧できるプラン。宿泊者を増加させることで、地域の経済の活性化を図る	構成市町 観光協会 観光連盟

②	日本遺産 F A M ツアーの実施	日本遺産と周辺観光資源等を組み合わせた周遊コースを造成する。(日本遺産認定ストーリーの解説・構成文化財の紹介)	観光連盟 構成市町 観光協会
③	商談会等への参加	県内外で開催される商談会等へ参加し、石見地域の情報を周知することでツアー造成に繋げる	観光連盟
④	高付加価値コンテンツの販売拡大	神楽を支える面、衣裳、蛇胴の職人との交流体験や地元の食を楽しみながら神楽鑑賞を提供する「ここでしか体験できない」特別性・希少性のあるコンテンツの販売拡大	構成市町 神楽団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	出張神楽上演 受付件数		101 件
2023			74 件
2024			93 件
2025	出張神楽上演 受付件数		100 件以上
2026	出張神楽上演 受付件数		100 件以上
2027	出張神楽上演 受付件数		100 件以上
事業費	2025 年度：3,000 千円 2026 年度：3,000 千円 2027 年度：3,000 千円		
継続に向けた事業設計	出張神楽上演は、旅行会社向けに石見神楽の魅力を P R する地道な取り組みが必要であり、上演可能な神楽団体の選定と調整など観光協会及び地元旅行会社と連携して取り組む。 神楽を軸とした高付加価値コンテンツについては、販路の取組みを行った結果、大手旅行会社等での販売が開始されているが、10 万円を超える価格帯であることから、継続的な販売と販路の拡大に取り組む。また、神楽団体、神楽産業、観光協会、地元旅行会社など連携先との円滑な運営体制を構築する。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号 6 - A)

事業名	地域での日本遺産活用		
概要	文化的価値を知ってもらう機会を創出する。大型ショッピングセンターや地域祭事の会場等にて展示パネルを設置し、日常生活の中で日本遺産のストーリーを知る機会をつくる。また、ワークショップや石見神楽検定など、鑑賞するだけでなく体験型とすることで家族・友人と参加しやすい工夫を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	日本遺産ワークショップの実施	県内で日本遺産の理解を促進するためのワークショップを実施する。	観光連盟 神楽団体 構成市町
②	日本遺産展示会の実施	石見地域の市町において日本遺産のストーリー紹介パネルを各市町の会場で展示する。	構成市町 神楽団体 観光連盟
③	石見神楽検定	石見神楽について理解を深めていただくために、ご当地検定「浜田の石見神楽検定」を実施。	商工団体
④	次世代への継承のための取り組み	学校教育では、「ふるさと教育」において、児童生徒が文化財の魅力に触れる機会を設け、一層文化財に興味・関心を持つような手法を検討し石見 9 市町の学校現場や教育委員会と連携を強化し取組を進める。	構成市町 神楽団体
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	日本遺産ワークショップの実施回数		3 件
2023			2 件
2024			2 件
2025	日本遺産ワークショップの実施回数		3 件以上
2026	日本遺産ワークショップの実施回数		3 件以上
2027	日本遺産ワークショップの実施回数		3 件以上
事業費		2025 年度：525 千円 2026 年度：525 千円 2027 年度：525 千円	
継続に向けた事業設計		伝統文化の継承という観点から学校教育課程内で石見神楽について取り上げられるところが多く、依頼があれば資料教材の提供・ノベルティの配布ができる整備を整える。 ワークショップや展示会などを通じて神楽社中の方との対話する機会を積極的に作り、神楽に対する思いを観光客や地元住民へ伝えることでシビックプライド醸成に繋げる。	

(7) ー7 情報編集・発信			
(事業番号 7-A)			
事業名	目的別情報発信		
概要	旅前・旅中・旅後それぞれの活用用途に合った WEB サイトを準備し来訪者や地域住民へ最新の情報を提供する体制をつくる。また、石見神楽のストーリーを分かりやすく解説したパンフレット等を作成し、インバウンドにも対応できるものを配布する。		
	取組名	取組内容	実施主体

①	WEBサイト「石見国」、SNSの運営	・WEB広告の実施 ・掲載記事の拡充	観光連盟
②	日本遺産パンフレット等の作成	・日本遺産のストーリーをPRするパンフレット、ポスターの制作	観光連盟 構成市町 観光協会
③	広域連携（石見の神楽在月）	・石見の神楽在月特設ページの運営 ・石見の産品が当たるプレゼントキャンペーンの実施	観光連盟 構成市町 観光協会
④	構成市町、観光協会のWEBサイトやSNSの運営	・構成市町や観光協会がそれぞれの特色を活かしたWEBサイトやSNSにおいて情報発信を実施	構成市町 観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2022	観光連盟、各構成市町、観光協会がそれぞれに運営しているSNSのフォロワー数の総数		
2023			
2024			50,319
2025	観光連盟、各構成市町、観光協会がそれぞれに運営しているSNSのフォロワー数の総数		53,500
2026	観光連盟、各構成市町、観光協会がそれぞれに運営しているSNSのフォロワー数の総数		57,000
2027	観光連盟、各構成市町、観光協会がそれぞれに運営しているSNSのフォロワー数の総数		60,000
事業費	2025年度：2,400千円 2026年度：2,400千円 2027年度：2,400千円		
継続に向けた事業設計	WEBに掲載している定期公演予定などは各市町観光協会が随時更新を行い、最新の情報を素早く更新できる体制をとる。 また、定期公演だけでなく各市町で開催予定の神楽イベント情報、プレゼントキャンペーンの実施情報も同一サイトへ一元化することで、石見地域の周遊へつながる情報提供とし、来訪意欲の醸成へと繋げる。 サイトへのアクセス数を月間ごとに把握し、関係市町・団体と情報を共有することで効果的な広報戦略を考察・検証を行う。		